

令和4年3月29日

市販薬の濫用防止に関する情報の集計及び分析一式  
報告書

公益財団法人日本中毒情報センター

標記の請負業務の内容について、以下のとおりとりまとめたので報告します。

- 1 問合せ件数、年齢、性別、製品群（薬効分類）等の情報  
・・・ 1
- 2 問合せのあった一般用医薬品について、成分組成、剤型、症状等の情報  
・・・ 14
- 3 問合せ時に一般用医薬品の入手経路（店舗、ネット等）や購入数（一度に複数箱購入した等）、事故の概要等の付随情報  
・・・ 20

## 対象

2017～2021年に日本中毒情報センターに問い合わせがあった一般用医薬品の意図的摂取例1168例

## 集計項目

- (1) 問い合わせ件数
- (2) 問い合わせ者の内訳
- (3) 患者年齢層
- (4) 患者年齢分布 ※1168例のうち、正確な年齢を聴取し得た1124例を対象
- (5) 患者年齢 10代20代 ※患者年齢10～29歳のうち、正確な年齢を聴取し得た869例を対象
- (6) 患者性別
- (7) 薬効分類
- (8) 発生時刻 ※1168例のうち、発生時刻を聴取し得た932例を対象
- (9) 発生日 ※1168例のうち、発生日を聴取し得た1085例を対象
- (10) 発生曜日 ※1168例のうち、発生日を聴取し得た1085例を対象

### (1) 問い合わせ件数

・2017年から2021年にかけて、問い合わせ件数は年々増加した。

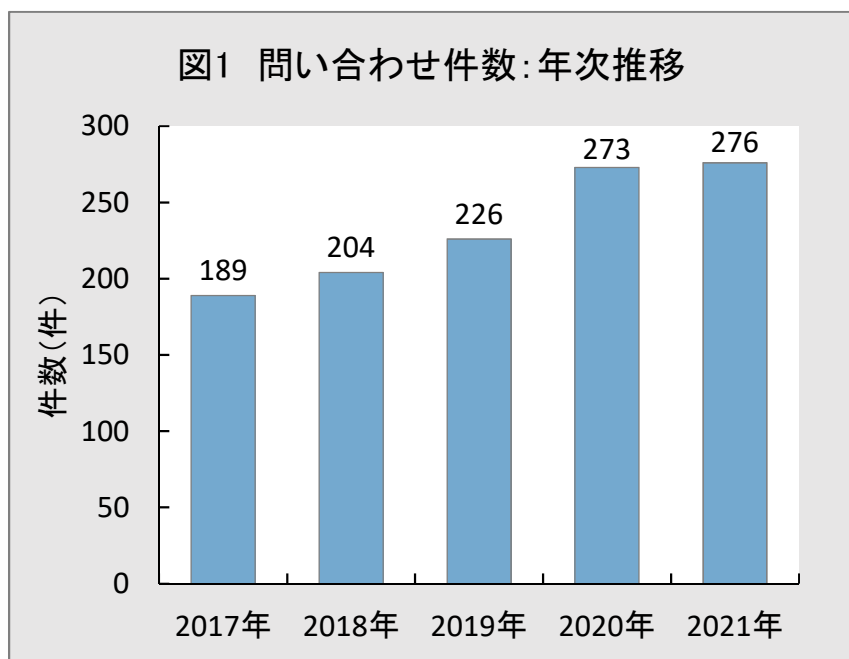


表1

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	計
件数	189	204	226	273	276	1168

## (2) 問い合わせ者の内訳

・問い合わせ者は、医療機関が72%、一般市民が25%、学校関係者が2%、その他が1%であった。

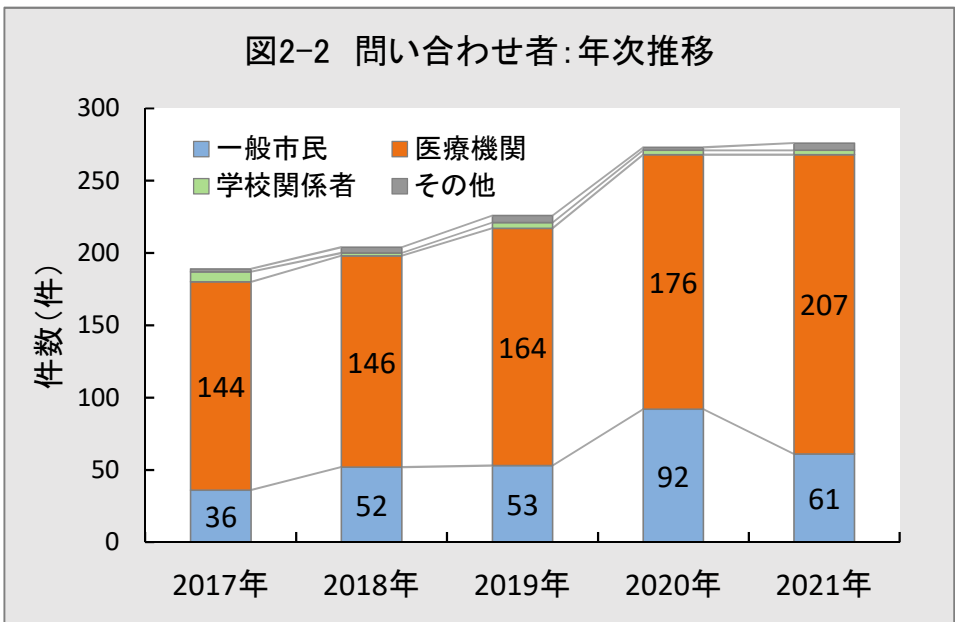
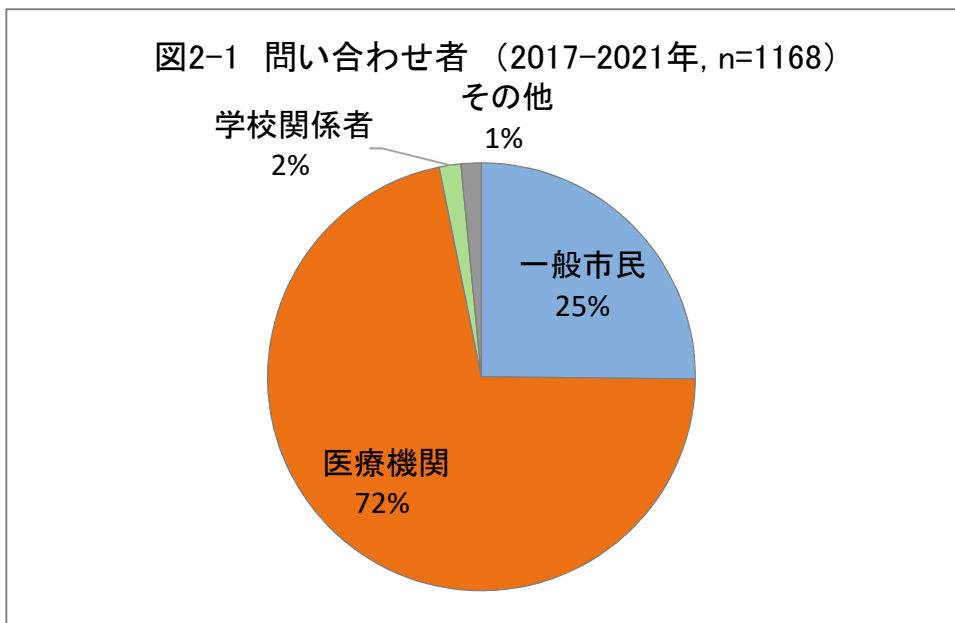


表2

問い合わせ者	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	計
一般市民*	36	52	53	92	61	294
医療機関	144	146	164	176	207	837
学校関係者	7	2	4	3	3	19
その他**	2	4	5	2	5	18
計	189	204	226	273	276	1168

\*一般市民：患者本人、家族、知人など

\*\*その他：救急隊、障害者施設、高齢者施設など

### (3) 患者年齢層

- ・患者年齢は、10代が43%で最も多く、次いで、20代が32%を占めた。
- ・2017年から2021年にかけて、10代、20代が増加した。

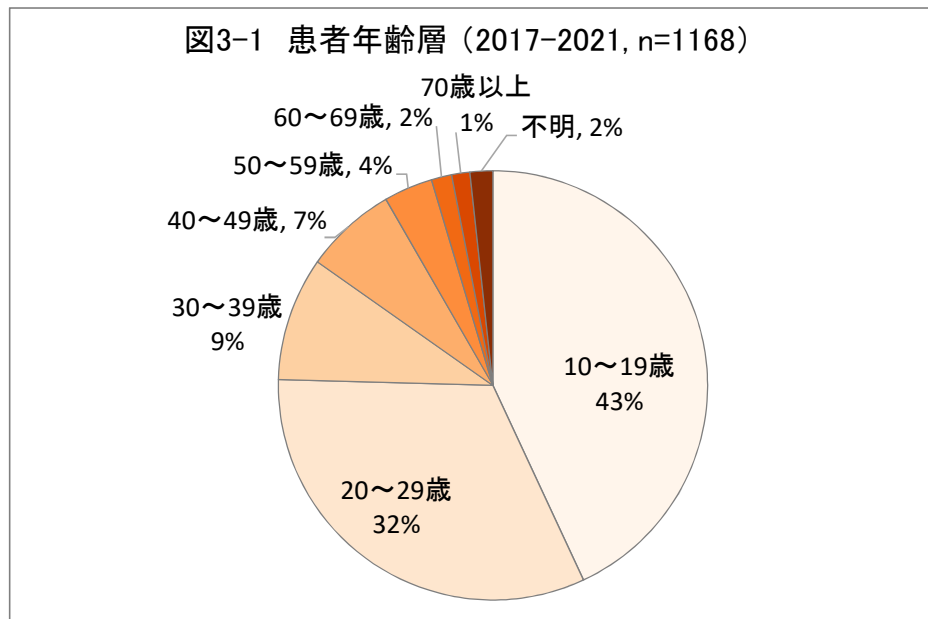


図3-2 患者年齢層：年次推移

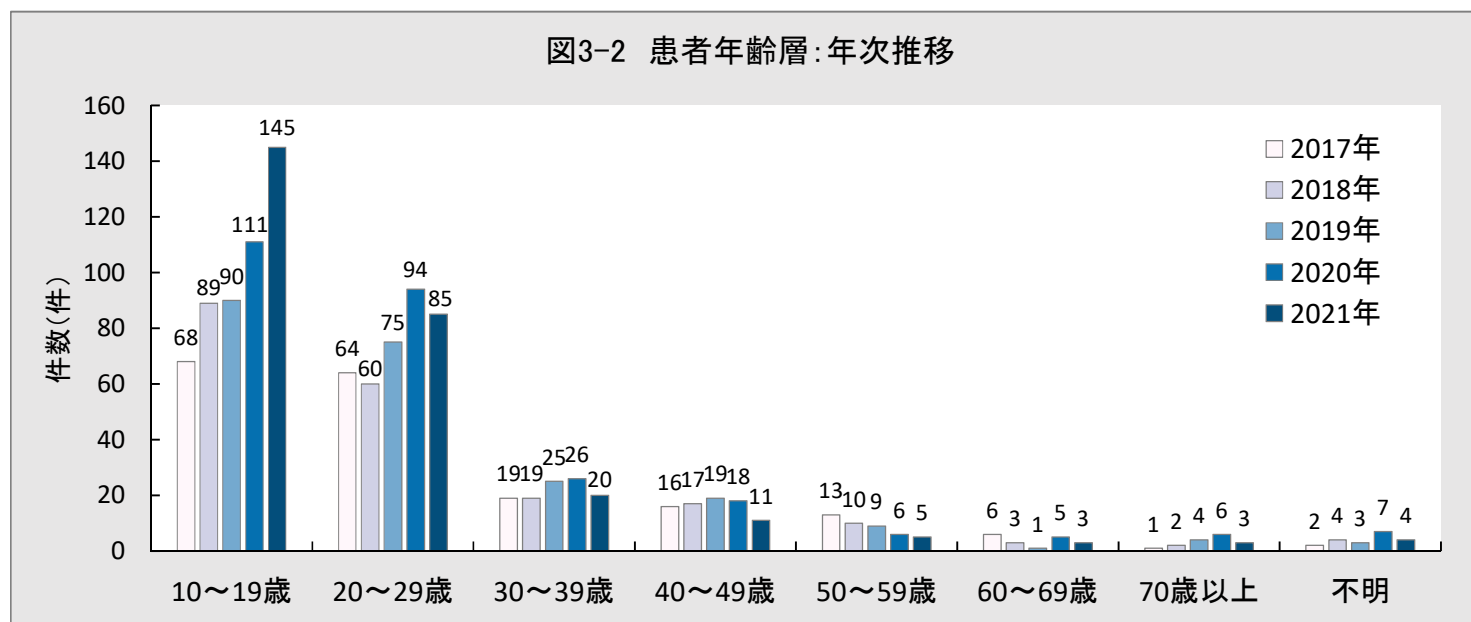


表3

年齢層	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	計
10～19歳	68	89	90	111	145	503
20～29歳	64	60	75	94	85	378
30～39歳	19	19	25	26	20	109
40～49歳	16	17	19	18	11	81
50～59歳	13	10	9	6	5	43
60～69歳	6	3	1	5	3	18
70歳以上	1	2	4	6	3	16
不明	2	4	3	7	4	20
計	189	204	226	273	276	1168

(4) 患者年齢分布

※集計対象:1168例のうち、正確な年齢を聴取し得た1124例

・2017年から2021年にかけて、患者年齢は低年齢化した。

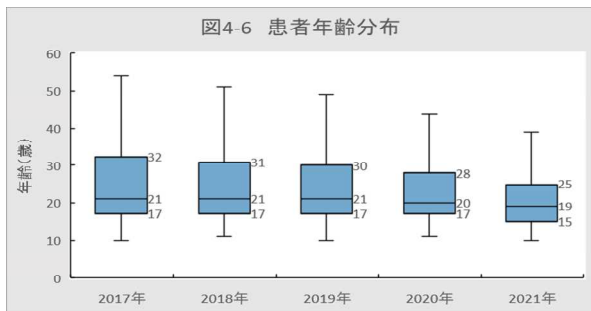
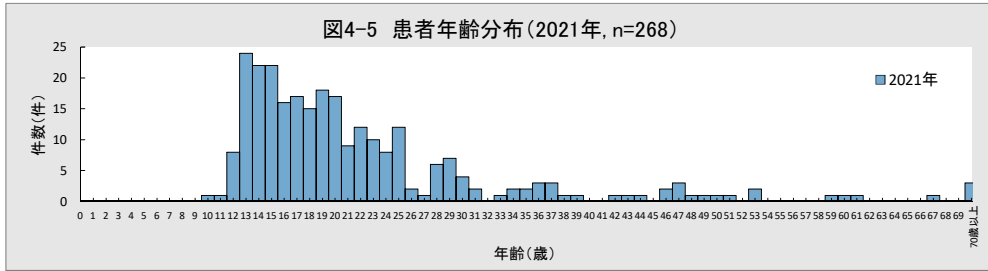
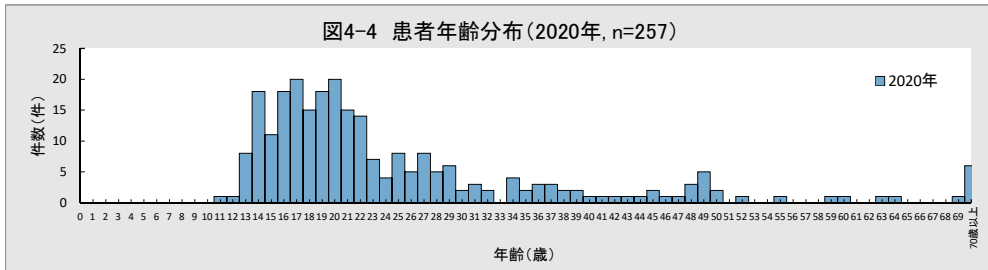
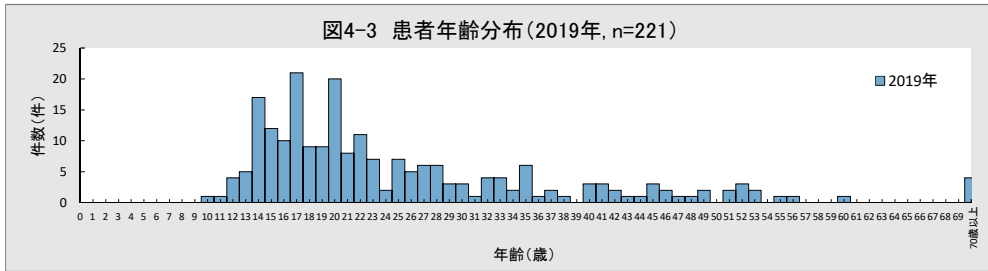
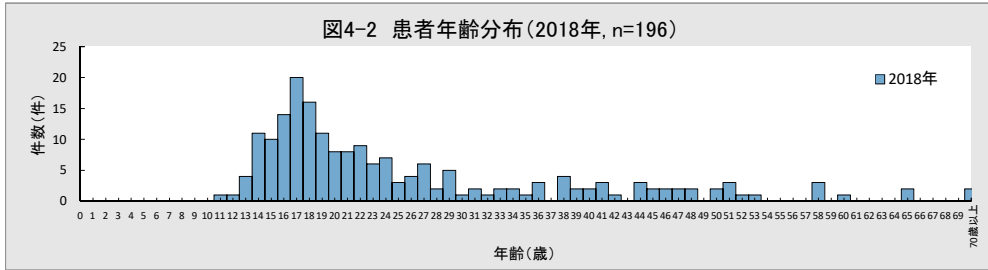
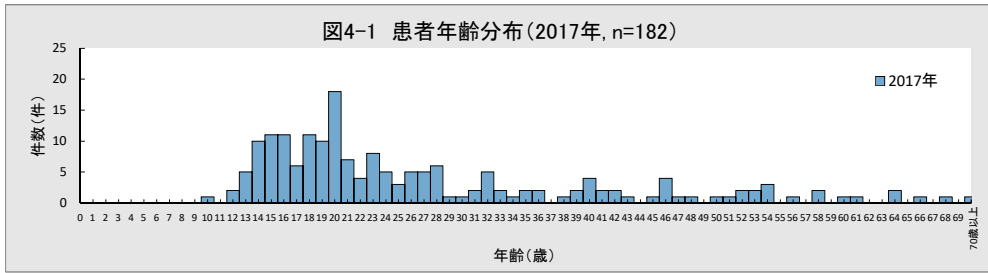


表4

年齡	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0
10	1	0	1	0	1
11	0	1	1	1	1
12	2	1	4	1	8
13	5	4	5	8	24
14	10	11	17	18	22
15	11	10	12	11	22
16	11	14	10	18	16
17	6	20	21	20	17
18	11	16	9	15	15
19	10	11	9	18	18
20	18	8	20	20	17
21	7	8	8	15	9
22	4	9	11	14	12
23	8	6	7	7	10
24	5	7	2	4	8
25	3	3	7	8	12
26	5	4	5	5	2
27	5	6	6	8	1
28	6	2	6	5	6
29	1	5	3	6	7
30	1	1	3	2	4
31	2	2	1	3	2
32	5	1	4	2	0
33	2	2	4	0	1
34	1	2	2	4	2
35	2	1	6	2	2
36	2	3	1	3	3
37	0	0	2	3	3
38	1	4	1	2	1
39	2	2	0	2	1
40	4	2	3	1	0
41	2	3	3	1	0
42	2	1	2	1	1
43	1	0	1	1	1
44	0	3	1	1	1
45	1	2	3	2	0
46	4	2	2	1	2
47	1	2	1	1	3
48	1	2	1	3	1
49	0	0	2	5	1
50	1	2	0	2	1
51	1	3	2	0	1
52	2	1	3	1	0
53	2	1	2	0	2
54	3	0	0	0	0
55	0	0	1	1	0
56	1	0	1	0	0
57	0	0	0	0	0
58	2	3	0	0	0
59	0	0	0	1	1
60	1	1	1	1	1
61	1	0	0	0	1
62	0	0	0	0	0
63	0	0	0	1	0
64	2	0	0	1	0
65	0	2	0	0	0
66	1	0	0	0	0
67	0	0	0	0	1
68	1	0	0	0	0
69	0	0	0	1	0
70歲以上	1	2	4	6	3
平均年齡	27.0	25.9	25.6	25.3	22.4
標準偏差	13.9	13.3	13.3	13.7	11.8
標準誤差	1.0	1.0	0.9	0.9	0.7

(5) 患者年齢 10代20代

※集計対象：10～29歳のうち、正確な年齢を聴取し得た869例（「10歳代」「20歳代」としか聴取出来なかった10例は除外）

- ・10～29歳のうち、14～20歳が約60%を占めた。
- ・2017年から2021年にかけて、10代～20代前半に増加傾向が認められた。また、2021年は12～15歳が顕著に増加した。
- ・最少年齢は10歳であった。

図5-1 患者年齢 10代20代(2017-2021年, n=869)

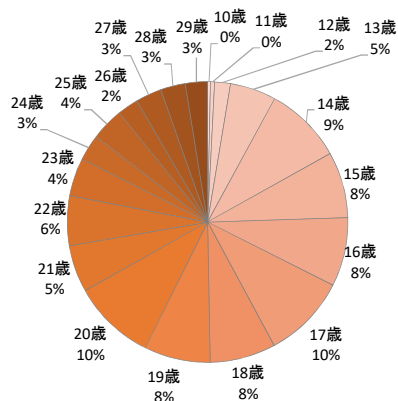


図5-2 患者年齢 10代20代：年次推移

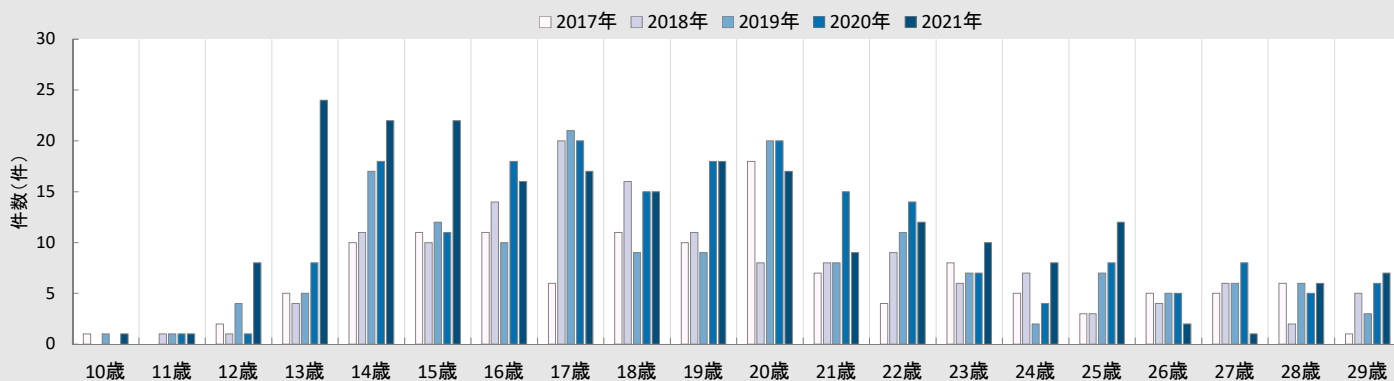


表5

年齢	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	計
10歳	1	0	1	0	1	3
11歳	0	1	1	1	1	4
12歳	2	1	4	1	8	16
13歳	5	4	5	8	24	46
14歳	10	11	17	18	22	78
15歳	11	10	12	11	22	66
16歳	11	14	10	18	16	69
17歳	6	20	21	20	17	84
18歳	11	16	9	15	15	66
19歳	10	11	9	18	18	66
20歳	18	8	20	20	17	83
21歳	7	8	8	15	9	47
22歳	4	9	11	14	12	50
23歳	8	6	7	7	10	38
24歳	5	7	2	4	8	26
25歳	3	3	7	8	12	33
26歳	5	4	5	5	2	21
27歳	5	6	6	8	1	26
28歳	6	2	6	5	6	25
29歳	1	5	3	6	7	22
計	129	146	164	202	228	869



## (6) 患者性別

- ・性別は女性が75%、男性が24%であった。
- ・2017年から2021年にかけて、特に女性患者が増加した。

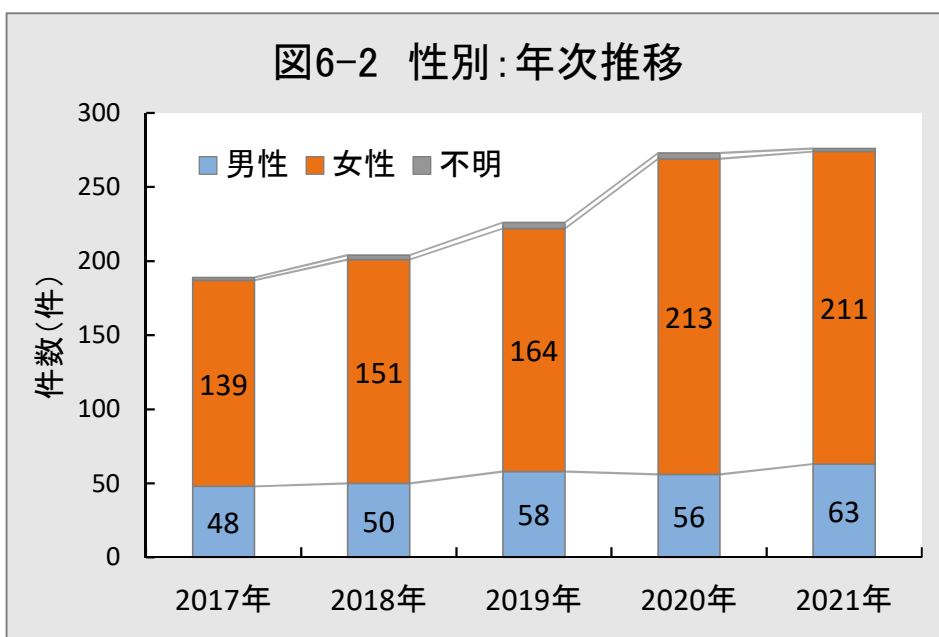
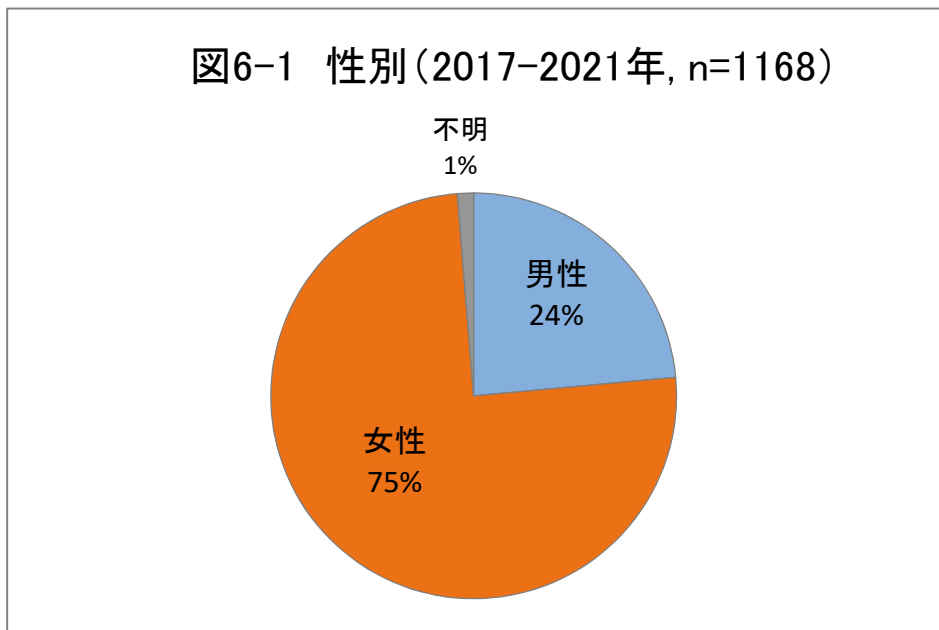
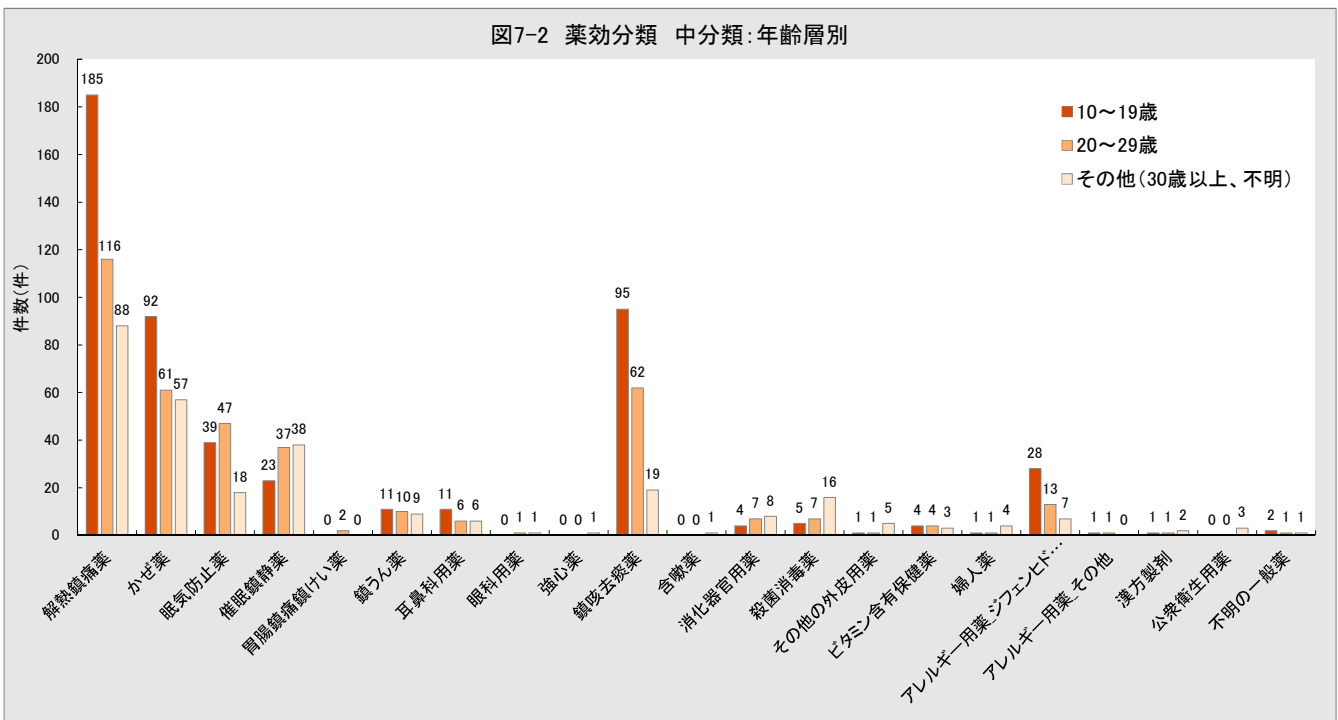
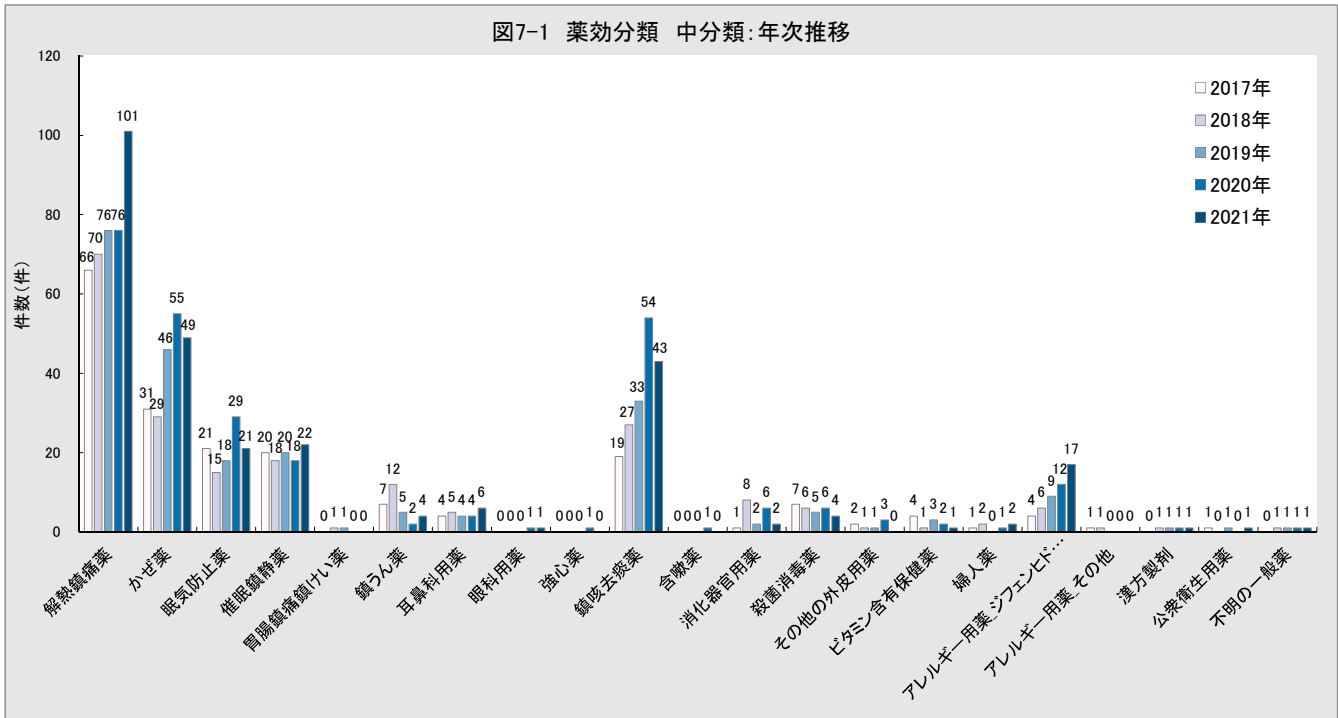


表6

性別	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	計
男性	48	50	58	56	63	275
女性	139	151	164	213	211	878
不明	2	3	4	4	2	15
計	189	204	226	273	276	1168

(7)薬効分類

・2017年から2021年にかけて、解熱鎮痛薬、かぜ薬、眠気防止薬、鎮咳去痰薬、アレルギー用薬、ジフェンヒドラミンに増加が認められた。  
 ・解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮咳去痰薬、アレルギー用薬、ジフェンヒドラミンは10代に多く、眠気防止薬は20代、催眠鎮静薬は20代以上に多かった。











## 集計項目

分類CD:薬効分類に対応したコード

分類 : 薬効分類 (+成分)

製品名 : 問い合わせのあった製品名

製造販売会社 : JAPIC医療用・一般用医薬品集、メーカーwebサイト、販売サイトにて確認

剤型 : JAPIC医療用・一般用医薬品集、メーカーwebサイト、販売サイトにて確認

包装単位 : JAPIC医療用・一般用医薬品集、メーカーwebサイト、販売サイトにて確認

濫用等のおそれのある医薬品 : 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律施行規則第十五条の二の規定に基づき濫用等のおそれのあるものとして厚生労働大臣が指定する医薬品」(平成26年厚生労働省告示第252号)

成分 : JAPIC医療用・一般用医薬品集、メーカーwebサイト、販売サイトにて確認。1錠(カプセル、包、mL)あたりのmg(または%)として表示

問い合わせ件数 : 該当製品の意図的摂取の問い合わせ件数

症状あり : JPICへの問い合わせまでに症状が出現していた件数

症状あり(うち医療機関) : JPICへの問い合わせまでに症状が出現していた件数のうち、医療機関からの問い合わせ件数

医療機関から聴取した症状 : 医療機関から聴取した症状

摂取箱数別 件数 : 摂取した箱数別の件数。摂取箱数は「摂取量(錠、カプセル、包) ÷ 最大包装単位」で算出  
ただし、問い合わせ時点で箱数を聴取している場合は、聴取した箱数

患者年齢層 : 10-14歳、15-19歳、20-29歳、30歳以上、不明に分類。"高校生"は「15-19歳」、10歳代で正確な年齢が不明な場合は「10歳代」とした。











## 結果

### ・問い合わせが多い上位製品

エスエスブロン錠*	139件、うち10歳代77件（55%）	：鎮咳去痰薬（ジヒドロコデイン・メチルエフェドリン・クロルフェニラミン・カフェイン）
バファリンA	86件、うち10歳代30件（35%）	：解熱鎮痛薬（アスピリン）
イブA錠	83件、うち10歳代47件（57%）	：解熱鎮痛薬（イブプロフェン・カフェイン・アリルイソプロピルアセチル尿素）
エスタロンモカ錠	68件、うち10歳代27件（40%）	：眠気防止薬（カフェイン）
レスタミンコーワ糖衣錠	33件、うち10歳代20件（61%）	：アレルギー用薬（ジフェンヒドラミン塩酸塩）
エスタロンモカ12	32件、うち10歳代10件（31%）	：眠気防止薬（カフェイン）
ウット*	26件、うち10歳代 4件（15%）	：催眠鎮静薬（プロモバレリル尿素・ジフェンヒドラミン塩酸塩・アリルイソプロピルアセチル尿素）
ナロンエース*	24件、うち10歳代 5件（21%）	：解熱鎮痛薬（イブプロフェン・エテンザミド・プロモバレリル尿素・カフェイン）
新ルル-A錠s	24件、うち10歳代10件（42%）	：かぜ薬（アセトアミノフェン・ジヒドロコデイン・メチルエフェドリン・カフェイン）
パブロンゴールドA<錠>	23件、うち10歳代 9件（39%）	：かぜ薬（アセトアミノフェン・ジヒドロコデイン・メチルエフェドリン・クロルフェニラミン・カフェイン）
新コンタックせき止めダブル持続性	23件、うち10歳代 9件（39%）	：鎮咳去痰薬（デキストロメトルファン・ジプロフィリン）
ドリエル	22件、うち10歳代 4件（18%）	：催眠鎮静薬（ジフェンヒドラミン塩酸塩）
トラベルミン	22件、うち10歳代 8件（36%）	：乗物酔防止薬（ジフェンヒドラミンサリチル酸塩・ジプロフィリン）

\*「濫用等のおそれのある医薬品」に該当の製品

### ・以下の製品では複数箱を摂取している例が多い。

トラベルミン	22件中19件（86%）、最大22箱（132錠）	ジフェンヒドラミンサリチル酸塩5.3g、ジプロフィリン3.4g相当
エスタロンモカ錠	68件中50件（74%）、最大19箱（456錠）	カフェイン45.6g相当
ドリエル	22件中14件（64%）、最大10箱（120錠）	ジフェンヒドラミン3g相当
エスタロンモカ12	32件中19件（59%）、最大8箱（160錠）	カフェイン16g相当
ウット*	26件中13件（50%）、最大10箱（120錠）	プロモバレリル尿素10g、ジフェンヒドラミン1g相当
レスタミンコーワ糖衣錠	33件中11件（33%）、最大8瓶（600錠）	ジフェンヒドラミン6g相当
エスエスブロン錠*	139件中31件（22%）、最大6箱（500錠）	ジヒドロコデイン1.3g・メチルエフェドリン2g・カフェイン3.8g相当

\*「濫用等のおそれのある医薬品」に該当の製品

### ・「濫用等のおそれのある医薬品」として規制されている成分（コデイン、ジヒドロコデイン、メチルエフェドリン、プロモバレリル尿素）以外でもカフェイン、ジフェンヒドラミンを含有する製品では、痙攣、不整脈、心停止など重篤な症状が出現している例がみられた。

参考 中毒量 カフェイン：0.5g程度であっても不穏、興奮、振戦の可能性がある。

1g程度で頻回嘔吐、血清カリウム値の低下等の明らかな症状が出現する。

ジフェンヒドラミン：0.3g 以上で中等症（興奮、錯乱、幻覚、QT 延長などの心電図異常）、

1g 以上で重症（せん妄/精神病様症状、痙攣、昏睡）となる可能性がある。

日本中毒情報センターへの問い合わせ時に聴取した内容から、以下について判明した事例をまとめた。

- (1) 薬の入手経路
- (2) 濫用に関する情報の入手先
- (3) 複数箱購入したと思われる事例
- (4) 「濫用等のおそれのある医薬品」以外の乱用事例

## (1)薬の入手経路を聴取した事例

## ①店頭購入(薬局、ドラッグストアなど)

薬効分類	商品名	摂取量	年齢	性別	状況	発生年	事例No.
催眠鎮静薬_プロモバレリル尿素	ウット*	12錠	40～49歳	女性	催眠鎮静薬を12錠飲んだ患者が搬送予定である。患者が薬を2回に分けて買いに来た際に薬剤師が救急車を呼んだ。	2018	1
催眠鎮静薬_プロモバレリル尿素	ウット*	29錠	30～39歳	女性	施設入所中のうつ病患者が催眠鎮静薬を隠れて店で購入し、29錠飲んだ。	2020	2
催眠鎮静薬_ジフェンヒドラミン	ネオデイ	12錠	20～29歳	男性	不眠で処方されている薬が無くなったため、薬局で購入した催眠鎮静薬を過量に服用した。	2019	3
解熱鎮痛薬_アセトアミノフェン	ナロン錠*	10錠	10～14歳	女性	薬局で購入した解熱鎮痛薬を一度に10錠飲んだ。	2020	4
解熱鎮痛薬_イブプロフェン	イブA錠	60錠	40～49歳	男性	ドラッグストアで購入した解熱鎮痛薬を過量摂取した。	2019	5
解熱鎮痛薬_イブプロフェン	スカイブロンEX	25錠	15～19歳	女性	薬局で解熱鎮痛薬を購入し、23時から翌日1時の間に25錠飲んだ。	2019	6
解熱鎮痛薬_イブプロフェン	ナロンエースT*	30錠	15～19歳	女性	家族と口論した後に自分で解熱鎮痛薬を購入し、その日と翌日に分けて過量摂取した。	2020	7
眠気防止薬_カフェイン	エスタロンモカ12	20錠	20～29歳	女性	15時に薬局で眠気防止薬を購入し、18～19時頃に20錠飲んだ。	2020	8
眠気防止薬_カフェイン	エスタロンモカ錠	20錠	15～19歳	女性	高校生が店で眠気防止薬を購入して20錠飲んだ。	2020	9
乗物酔防止薬	トラベルミン, 眠眠打破	24錠, 不明	15～19歳	女性	高校生がドラッグストアで薬を購入し、自殺目的で過量服用した。	2018	10
鎮咳去痰薬	エスエスブロン錠*	34錠	20～29歳	男性	薬局で購入した鎮咳去痰薬を仕事場で一度に多く飲んだ。	2019	11
鎮咳去痰薬	エスエスブロン錠*	50錠	15～19歳	女性	ネットで市販の鎮咳去痰薬のを知り、薬局で買って一度に50錠飲んだ。	2020	12
鎮咳去痰薬	エスエスブロン錠*	160錠	20～29歳	女性	薬局で購入した薬を160錠飲んだ。	2017	13
鎮咳去痰薬, 催眠鎮静薬_ジフェンヒドラミン	エスエスブロン錠*, ネオデイ	40錠, 5錠	15～19歳	女性	鎮咳去痰薬と催眠鎮静薬を薬局で購入し、過量服用した。	2019	14
アレルギー用薬_ジフェンヒドラミン	レスタミンコーワ糖衣錠	60錠	15～19歳	女性	薬局でアレルギー用薬を1本(120錠入り)買って、一度に60錠飲んだ。	2021	15
アレルギー用薬_ジフェンヒドラミン, 鎮咳去痰薬	レスタミンコーワ糖衣錠, エスエスブロン錠*	480錠(4本), 252錠(3本)	20～29歳	男性	患者本人が薬局で買ったアレルギー用薬を4本(1本120錠入り)服用した。前日も鎮咳去痰薬を3本(1本84錠入り)を服用しており、乱用と思われる。	2020	16

\*「濫用等のおそれのある医薬品」に該当の製品□

## ②ネット購入

薬効分類	商品名	摂取量	年齢	性別	状況	発生年	事例No.
解熱鎮痛薬_ロキソプロフェン	ロキソニンSプレミアム, ロキソニンS	24錠, 48錠	15～19歳	女性	ネットで購入した解熱鎮痛薬2種類を合計72錠飲んだ。	2019	17
乗物酔防止薬	トラベルミン(詳細不明)	29錠	20～29歳	男性	ネットで購入した乗物酔防止薬を29錠摂取した。	2021	18
アレルギー用薬_ジフェンヒドラミン	ジフェンヒドラミン(商品 名不明)	360～480錠(3 ～4本)	15～19歳	女性	ネットで購入したアレルギー用薬(1錠当たりジフェンヒドラミン10mg、ボトル1本120錠 入り)を3～4本を飲んだ。	2020	19

## ③家にあった薬

薬効分類	商品名	摂取量	年齢	性別	状況	発生年	事例No.
解熱鎮痛薬_イブプロフェン	イブA錠, ウイルクエスト Ipa	18錠, 18錠	15～19歳	男性	自宅にあった薬を過量服用した。	2017	20
解熱鎮痛薬_イブプロフェン	イブA錠EX, カロナール 錠, ケチアピン錠	42錠, 200mg× 8錠, 25mg×4 錠	10～14歳	女性	家にあった解熱鎮痛薬2種類(市販薬と処方薬)と本人の精神神経用剤を過量服用 した。	2021	21
解熱鎮痛薬_アセトアミノフェン	タイレノールA, コロネル 錠	5錠, 10錠	15～19歳	男性	家族用に購入していた解熱鎮痛薬と本人の処方薬を過量服用した。	2019	22
かぜ薬_アセトアミノフェン	新ルルーA錠s	70錠程度	10～14歳	女性	父親が服用していた市販のかぜ薬の残りを娘が全部飲んだ。	2017	23

(2) 濫用に関する情報の入手先を聴取した事例

① インターネット、SNS

薬効分類	商品名	摂取量	年齢	性別	状況	発生年	事例No.
眠気防止薬_カフェイン	エスタロンモカ12	14錠	10～14歳	女性	インターネットで情報を知って、自殺目的で初めて過量摂取した。	2020	24
かぜ薬_その他	パブロン(詳細不明)	6包	20～29歳	女性	SNSで多幸感などが得られることを知って、興味本位で過量摂取した。	2019	25
鎮咳去痰薬	エスエスブロン錠*	40錠	15～19歳	女性	ネットで「エスエスブロンを40錠飲むとフワフワして気持ちよくなる」と書いてあったので飲んだ。	2018	26
鎮咳去痰薬	エスエスブロン錠*	50錠	15～19歳	女性	ネットで市販の鎮咳去痰薬のことを知り、薬局で買って一度に50錠飲んだ。	2020	12
鎮咳去痰薬	エスエスブロン錠*	60錠	成人	男性	鎮咳去痰薬のオーバードーズのことをネットで見て、初めて試した。	2019	27
鎮咳去痰薬	エスエスブロン錠*	86錠以上	10～14歳	女性	ツイッターで乱用のことを知り、やってみようと思い服用した。	2021	28

\*「濫用等のおそれのある医薬品」に該当の製品

② 知人

薬効分類	商品名	摂取量	年齢	性別	状況	発生年	事例No.
鎮咳去痰薬	エスエスブロン錠*	40錠	15～19歳	女性	友達から飲むと気分がよくなると聞いて過量服用した。	2017	29

\*「濫用等のおそれのある医薬品」に該当の製品



(3) 複数箱購入したと思われる事例

薬効分類	商品名	摂取量(箱数**)	年齢	性別	状況	発生年	事例No.
催眠鎮静薬_プロモバレリル尿素	ウット*	29錠(3箱)	30~39歳	女性	施設入所中のうつ病患者が催眠鎮静薬を隠れて店で購入し、29錠飲んだ。	2020	2
催眠鎮静薬_ジフェンヒドラミン	ドリエル	102錠程度(8.5箱)	15~19歳	男性	自殺企図で催眠鎮静薬を過量摂取した。自室に空箱が8.5箱分あり、薬は本人が購入したようだ。	2017	30
催眠鎮静薬_ジフェンヒドラミン	ドリエルEX	購入3箱のうち6カプセル(1箱)	15~19歳	女性	高校生が自分で催眠鎮静薬を3箱購入して、1箱分(6カプセル)を服用した。	2021	31
催眠鎮静薬_ジフェンヒドラミン、かぜ薬_アセトアミノフェン	ナイトテクト, パブロンS α<錠>	18錠(2箱), 21錠(1本)	20~29歳	女性	町でフラフラしているところを通報された患者が来院した。レシートに2種類の薬を購入した記録があった。	2020	32
催眠鎮静薬_ジフェンヒドラミン	ネオデイ	24錠(2箱)	10~14歳	女性	催眠鎮静薬を2箱分摂取した患者が救急搬送された。本人が購入した薬で、普段から1箱分を摂取しているとのことである。	2021	33
催眠鎮静薬_ジフェンヒドラミン, 催眠鎮静薬_その他	リポスミン, パンセダン	36錠(3箱), 24錠(1箱)	10~14歳	女性	自殺企図で2種類の市販薬を自分で購入し、過量服用した。	2021	34
解熱鎮痛薬_アセトアミノフェン	バファリン プレミアム	180錠(3箱)	70~79歳	女性	解熱鎮痛薬を自分で購入し、180錠摂取した。	2021	35
解熱鎮痛薬_イブプロフェン	イブクイック頭痛薬DX	60錠(2箱)	20~29歳	女性	自室で倒れていた患者が救急搬送された。市販薬の空包とレシートが残っており、本日昼頃に薬を購入している。	2021	36
眠気防止薬_カフェイン	エスタロンモカ錠	96錠(4箱)	20~29歳	女性	自分で眠気防止薬を購入し、96錠服用した。今回初めて購入した薬である。	2021	37
乗物酔防止薬	トラベルミン	10箱	10~14歳	女性	乗物酔防止薬を10箱飲んだ患者が来院した。レシートに10箱を一度に購入した記録がある。	2017	38
乗物酔防止薬	トラベルミン, 眠眠打破	24錠(4箱), 不明	15~19歳	女性	高校生がドラッグストアで薬を購入し、自殺目的で過量服用した。	2018	10
鎮咳去痰薬	エスエスブロン錠*	160錠(2本)	20~29歳	女性	薬局で購入した薬を160錠飲んだ。	2017	13
アレルギー用薬_ジフェンヒドラミン	ジフェンヒドラミン(商品名不明)	360~480錠(3~4本)	15~19歳	女性	ネットで購入したアレルギー用薬(1錠当たりジフェンヒドラミン10mg、ボトル1本120錠入り)を3~4本を飲んだ。	2020	19
アレルギー用薬_ジフェンヒドラミン, 鎮咳去痰薬	レスタミンコーワ糖衣錠, エスエスブロン錠*	480錠(4本), 252錠(3本)	20~29歳	男性	患者本人が薬局で買ったアレルギー用薬を4本(1本120錠入り)服用した。前日も鎮咳去痰薬を3本(1本84錠入り)を服用しており、乱用と思われる。	2020	16

\*「濫用等のおそれのある医薬品」に該当の製品

\*\*箱数: 摂取量(錠、カプセル、包) ÷ 最大包装単位で算出

(4)「濫用等のおそれのある医薬品」以外の乱用事例

薬効分類	商品名	摂取量	年齢	性別	状況	発生年	事例No.
催眠鎮静薬_ジフェンヒドラミン	ネオデイ	24錠	10～14歳	女性	催眠鎮静薬を2箱分摂取した患者が救急搬送された。本人が購入した薬で、普段から1箱分を摂取しているとのことである。	2021	33
催眠鎮静薬_ジフェンヒドラミン	ドリエルEX	4～6カプセル ×毎日	70～79歳	男性	精神安定目的に毎日のように催眠鎮静薬を1回2カプセル、1日2～3回服用している。	2020	39
解熱鎮痛薬_イブプロフェン, 解熱鎮痛薬_アセトアミノフェン	メリドンEV錠, 小中学生用ノーシンピュア	60錠程度, 20錠程度	10～14歳	女性	乱用目的で2種類の解熱鎮痛薬を過量服用した。	2021	40
眠気防止薬_カフェイン	エスタロンモカ錠	72錠	15～19歳	男性	市販の眠気防止薬を3箱分(72錠)飲んだ。乱用目的に飲んだようである。	2021	41
かぜ薬_アセトアミノフェン	パブロンゴールドA<錠>	20錠	15～19歳	女性	かぜ薬を過量摂取した。登校日になるといつも同じかぜ薬を過量摂取している。	2020	42
かぜ薬_アセトアミノフェン	パブロンゴールド錠	不明	成人	不明	友人がかぜ薬の瓶を1本持って姿を消した。普段からかぜ薬を乱用しているので、どこかで飲んでいるかもしれない。	2020	43
かぜ薬_アセトアミノフェン	パブロン(詳細不明)	6包	20～29歳	女性	SNSで多幸感などが得られることを知って、興味本位で過量摂取した。	2019	25
鎮咳去痰薬	新コンタックせき止めダブル持続性	24カプセル	20～29歳	男性	デキストロメトルファン含有の鎮咳去痰薬を過量摂取した。乱用癖があり、普段はブロンを過量に飲んでいる。	2019	44
アレルギー用薬_ジフェンヒドラミン, 鎮咳去痰薬	レスタミンコーワ糖衣錠, エスエスブロン錠*	480錠(4本), 252錠(3本)	20～29歳	男性	患者本人が薬局で買ったアレルギー用薬を4本(1本120錠入り)服用した。前日も鎮咳去痰薬を3本(1本84錠入り)を服用しており、乱用と思われる。	2020	16

\*「濫用等のおそれのある医薬品」に該当の製品